

米日教育交流協議会代表 丹羽筆人

在米親子にアドバイス

日米の教育事情

海外で学んだ英語力を生かすために

日本から来た子どもたちは、英語で苦勞しながら学んでいます。その努力の成果を生かすために、英語のテストを受験することをお勧めします。

まず、英検は、合格した級を帰国生入試で利用する学校があります。中学入試では2級または準2級合格、高校入試では準1級合格で、英

実践的な英語力の定着で帰国後の進学が有利になる



日本の入試でも実践的な英語力が必要に

語のテストが免除されたり、学力テストが課されない特別入試の出願資格が得られたりします。大学入試でも上智大のように出願資格として利用する大学もあります。

TOEFLは、外国人のための英語能力テストです。英語圏の大学で留学生の入学基準として利用されています。日本の大学でも帰国生大学入試の出願資格や入学者選考に利用されている場合があります。また、

帰国生入試では多くの大学の英語の入試問題がTOEFL形式で出題されています。また、2020年度入試から大学入試センター試験に代わって導入される新テストの英語は、TOEFLのような実践的な英語力を試す外部テストの導入が検討されています。

SATは、米国の大学入学者選考のために利用されるテストで、高校での学習到達度を測るものです。SATは、東京大・京都大・慶應義塾大など一部の大学の帰国生入試で、入学者選考のために利用されています。SATと同種の大学では利用されない場合もあります。

このように、英語力を伸ばして、英検やTOEFL、SATなどで好

成績を上げることによって、帰国後の進学が有利になります。

一方、海外では日本語力を測るテストも実施されていますので受験してみるとよいでしょう。

AP Japanese Testは、現地の高校のみでなく大学のクレジットとして認められることもあります。中学生程度の日本語力があれば、5段階評価の5で合格するのも難しくありません。

日本語能力検定試験は、在外期間が長くなった子どもの日本語学習の目標として受験するのも良いでしょう。1級に合格すれば、日本の大学への留学や企業への就職に有利になります。

このように、海外では日本語力を有効利用することもできるのです。(今回は1月第4週号掲載)

米日教育交流協議会のウェブサイトに、当コラムのバックナンバーもお読みいただけます。

UIJEC Website: www.uijec.org